

CASBEE[®]新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.1)

1. 建物概要					
建物名称	ナミックス株式会社 新工場				
建設地	北区				
用途地域	工業専用地域				
建物用途	事務所、工場				
竣工年	2011年10月 予定				
敷地面積	29,968.76 m ²				
建築面積	2,647.06 m ²				
延床面積	3,704.69 m ²				
階数	地上2階、地下0階				
構造	S造				
評価の段階	実施設計段階評価				
評価の実施日	2011年3月5日				
2. CASBEE新潟の評価結果					
		A	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{62}{37} = 1.6$		
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★					
3. 新潟市の重点項目の評価					
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	平均スコア 3.4		バリアフリー	Q2.1.1.3	3.0
			維持管理	Q2.1.3	4.0
			更新性	Q2.3.3	3.2
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	平均スコア 3.5		耐震・免震	Q2.2.1	3.0
			信頼性	Q2.2.4	4.0
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	平均スコア 2.0		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1	2.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	平均スコア 3.0		建物の熱負荷抑制	LR1.1	3.0
			自然エネルギー利用	LR1.2	3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	平均スコア 3.0		節水	LR2.1.1	4.0
			リサイクル材の使用	LR2.2.4	1.0
			再利用可能性向上	LR2.2.6	4.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	平均スコア 3.5		生物環境の保全・創出	Q3.1	3.0
			敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2	4.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	平均スコア 3.5		まちなみ・景観への配慮	Q3.2	4.0
			地域性への配慮、快適性の向上	Q3.3.1	3.0
4. 新潟市の重点項目の配慮事項					
新潟市の重点項目に関する配慮事項を記載してください。 建物を長く使い続けるために、耐汚性の高い内装仕上材の選定、埃溜りの少ない内装デザインの採用等に配慮しています。 また建屋内の照明器具の大半をLEDを光源とした照明器具とすることで、省エネルギーにも配慮しています。 更に将来の自然エネルギー利用を想定し、自然エネルギー利用設備を将来設置可能な建築計画としています。					

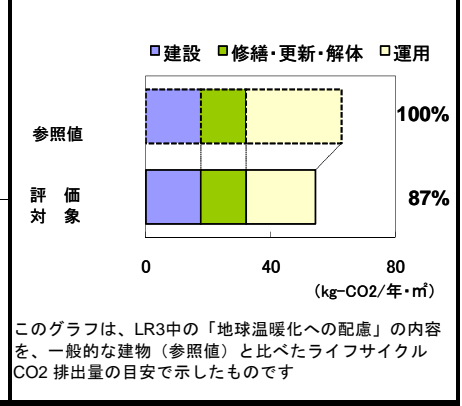
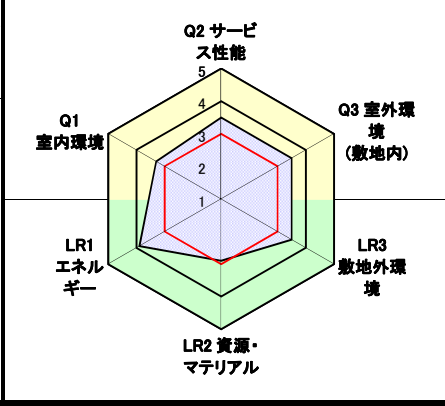
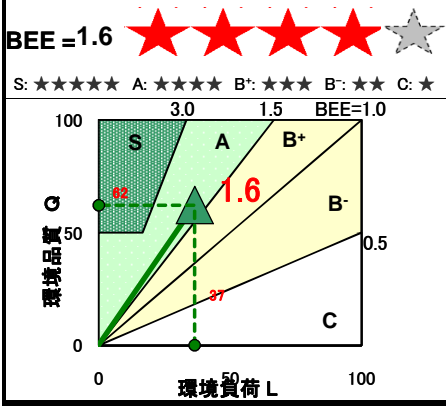
■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

CASBEE[®]新潟

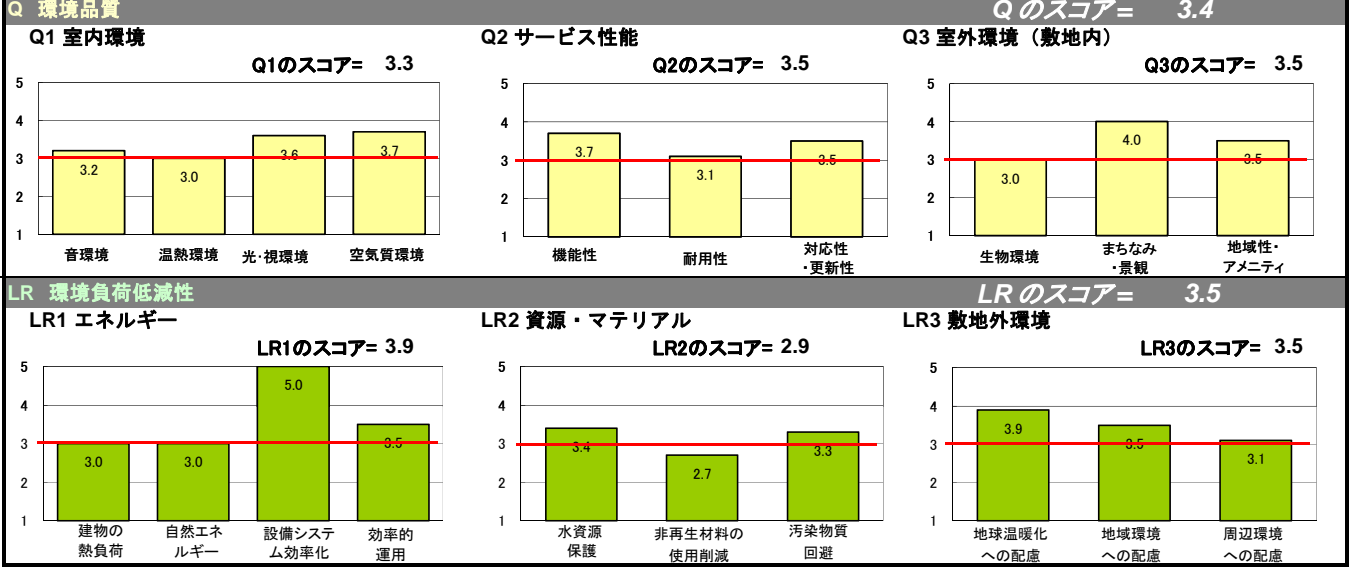
評価結果内訳

■ 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築 (簡易版) 2008年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.1)

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート) | **2-2 大項目の評価 (レーダーチャート)** | **2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)**



2-4 中項目の評価 (バーチャート)



2-5 設計上の配慮事項

総合 清浄度の高い作業環境が求められる工場であるため、設備負荷が大きい施設となる。しかし設備負荷の大きい環境を局所化することで、要求される作業環境を実現しながらも、地球環境に対する負荷が最小限となるよう配慮している。		その他 太陽光等の自然エネルギーを将来的に有効利用することを視野に入れた施設としている。具体的には、建屋屋上に将来的に自然エネルギー利用設備を設置することを想定し、機器荷重を見込んで建屋の構造計画を行っている
Q1 室内環境 窓の無い環境で作業者が長時間作業を行うことが想定されるため、シックハウス対策や、作業上ストレスとならない適度な照度を確保する照明計画を実現するよう配慮している。	Q2 サービス性能 耐汚性の高い仕材を選定している。また室内においては入隅や出隅を最小限とし、埃溜りの少ない環境を実現している。事務作業を行う室についても十分な天井高さを確保し、作業者がリラックスして作業できる環境を実現している。	Q3 室外環境 (敷地内) 敷地内に可能な限り多くの緑地を設置するように努めている。また緑地の配置についても敷地の外周部に連続した緑地帯を形成することで、歩車道からの景観が良好なものになるよう配慮している。
LR1 エネルギー 一定の温湿度が要求される作業環境が大部分を占める建物であるため、変動の大きい自然エネルギーを活用することが困難ではあるが、照明にLEDを採用することで省エネルギーに配慮している。	LR2 資源・マテリアル 省水型機器を採用することで水資源の効率的な利用に配慮している。	LR3 敷地外環境 十分な量の駐車施設を確保することで、施設利用者による敷地周辺の路上駐車が発生しないようにしている。また搬出入車両の待機スペースを敷地内に確保することで、周辺の路上に搬出入車両が停車しないよう配慮している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される